

オルタナティブ・ツーリズムの現場から

地域が持つ独自の歴史ストックが 人を惹きつける

神楽坂（東京都新宿区）

文豪たちも愛した花街

東京の山手線が描く円のちょうど中心に
当たる位置にある神楽坂。ここは、かつて銀
座と並ぶ繁華街として栄えた。昭和の初め
には、七〇件を超える料亭が軒を連ね、芸者
さんも七〇〇人以上いた花街だったという。
その華やかさに惹かれて、尾崎紅葉や泉鏡花
といった文豪たちも居を構えた歴史を持つ。

神楽坂は、ここ数年若い女性を中心に人
気を集め、今や都内で最も住みたい街の
1に選ばれるほど。JRや地下鉄の駅から
近いこともあり、常に大勢の人々がこの坂を
行き来している。

「神楽坂の魅力は、『露地』『外堀』『坂』で
す。手を伸ばせば届くほどの細い露地に沿



ナビゲーター
神楽坂まちの手帖発行人・編集長
平松 南
Minami Hiramatsu

狭い迷路のような露地の奥
には、タイムスリップした
ような古い町並みや料亭が



坂の頂上にある赤城神社は牛込の総鎮守で正安2年(1300年)に創建された



JR「飯田橋」駅の西側には、都心部で唯一、外堀跡が残っていて、神楽坂の魅力を彩る要素の1つになっている



居酒屋「もん」では、平松編集長が企画した古典落語の定例会が開かれている



近隣に新潮社があり、また早稲田大学や法政大学に近い繁華街ということで、多くの文豪たちがこの地を愛したのも納得



昭和12年創業の居酒屋前に立つナビゲーターの平松南編集



神楽坂は、その名のとおりゆるやかな勾配を持った坂を中心に街が広がる



人間国宝が日本の伝統芸能である「新内」を教えていることから「新内横町」と呼ばれるようになった通りもある



料亭が残り、石畳が美しい露地は、かつての日本の街の魅力を今に伝える

神楽坂まちの手帳 編集部

【連絡先】

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-12-1-305
TEL 03(3513)6670 FAX 03(3513)6671
URL <http://www.keyakisya.com>

つて黒塚が並び、そして石畳や階段がある昔ながらの東京の風景が、都内でわずかに残っている場所だからです」と、ここにかつて育った家があり、神楽坂のタウン誌の編集長を務める平松南氏は説明する。

わずか七〇メートルほどの道を中心とする小さな地域を対象としたタウン誌、神楽坂まちの手帖が成立するのも、「街に魅力があるので書くことは山ほどあるからです」。

確かに神楽坂には、表通りの商店街だけでなく、縦横に張り巡らされた迷路のような露地の奥に趣豊かな料亭や個性的な店があり、また、横丁商店街や飲食店街といった表の商店街とは違った顔の場所や、学校神社仏閣もある。

「これほど多くの要素を抱え込んだまちは、東京広しといえども他にはないでしょう。この多様性や懐の深さが神楽坂の身上です」。

加えて神楽坂は、人が住み、身近に人々の顔が見える街でもある。「知り合いがいれば大きな声で挨拶を交わす。他の商店街と違って昼間だけでなく、夜も賑やかな街なのです」。

江戸時代に神楽坂が誕生してから約四〇〇年、時を上手く積み重ねることで、土地自身が歴史のストックをジックリ貯えてきた。それを効果的に活かして街の活性化を進めている例として、「神楽坂」が人を惹きつけているというところなのだろう。

(文責・CEL編集部)

CEL